

短大特任教員教育研究業績

平成30年5月7日

氏名	ふりがな	所属	職位	性別
西岡 将美	にしおか まさみ	保育学科 通信教育課程	教授	男
担当科目名				
言語表現				
学歴				
和暦(西暦)年月	事項			学位
昭和46(1971)年4月	皇學館大学 文学部 国文学科 入学			
昭和50(1975)年3月	皇學館大学 文学部 国文学科 卒業			
昭和50(1975)年4月	皇學館大学大学院 文学研究科 国文学専攻 修士課程 入学			
昭和52(1977)年3月	皇學館大学大学院 文学研究科 国文学専攻 修士課程 修了			文学修士
教育歴・職歴				
名称	期間	教育内容又は業務内容		
三重県立尾鷲高等学校	昭和50年4月～51年3月	非常勤講師「国語」担当		
私立清明高等学校	昭和51年4月～52年3月	非常勤講師「国語」担当		
啓光学園中学校高等学校	昭和52年4月～58年3月	教諭(担当:中学校・高等学校) 校務分掌:(入試対策部、進路指導部、生活指導部)		
近畿大学熊野工業高等専門学校	昭和52年4月～58年3月	専任講師(高等専門学校「国語」担当) 校務分掌:(学寮主任、教務部)		
国立鈴鹿工業高等専門学校	昭和63年4月～平成5年3月	一般科目専任講師「国語」(現代文・古典)担当 校務分掌(学級担任・寮務主事補)		
国立鈴鹿工業高等専門学校	平成5年4月～17年3月	一般科目助教授・准教授(学科「国語」(現代文・古典)・「文章表現学」・専攻科「コミュニケーション論」)校務分掌(学級担任・学生主事補)・学生相談室長)		
国立鈴鹿工業高等専門学校	平成17年4月～28年3月 (平成28年3月定年退職)	教養教育科教授(学科「国語」(現代文・古典)・「言語表現学Ⅰ・Ⅱ」・専攻科「言語表現学特論」担当)		
国立鈴鹿工業高等専門学校	平成17年4月～19年3月	教授兼任・図書館長・図書館主事(1期2年)		
国立鈴鹿工業高等専門学校	平成19年4月～25年3月	教授兼任・校長補佐(学生主事)(3期6年)		
学校法人三幸学園 小田原短期大学	平成28年4月～現在	保育学科通信教育課程教授(担当:言語表現)		
学校法人三幸学園飛鳥未来高等学校 学校名古屋キャンパス	平成28年10月～29年3月	非常勤講師「国語」担当		
所属学会等				
名称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)		
皇學館大学人文学会	昭和46年4月～現在に至る	学会員		
NPO 日本教育カウンセラー協会	平成24年12月～現在に至る	「教育カウンセラー初級」認許 全国講習会参加		
国語教育史学会	平成25年4月～現在に至る	学会員		
日本保育学会	平成28年4月～現在に至る	学会員		
日本保育者養成教育学会	平成28年4月～現在に至る	学会員		
日本保育文化学会	平成29年6月～現在に至る	学会員		
社会活動等				
名称	活動期間	活動内容		
全日本弓道連盟会員	昭和46年4月～現在	錬士(平成24年2月)、五段(平成8年11月)		

全国高等専門学校弓道連盟副会長	平成16年3月～平成21年2月	全国高専弓道連盟設立委員。全国高専弓道選抜大会の開催、運営の副責任者。		
全国高等専門学校弓道連盟会長	平成21年3月～平成27年8月	全国高専弓道連盟運営、全国高専弓道大会の開催、運営の責任者（平成27年8月名誉会長）		
担当教科目に関する資格・免許等				
名 称	取得年月	取 得 機 関		
中学校教諭国語 1 級普通免許状 (現専修免許状) 高等学校教諭国語 2 級普通免許状	昭和50年3月	皇學館大學文学部・三重県教育委員会		
中学校教諭社会 1 級普通免許状・ 高等学校教諭社会 2 級普通免許状	昭和50年3月	皇學館大學文学部・三重県教育委員会		
高等学校教諭国語 1 級普通免許状(現専修免許状)	昭和52年3月	皇學館大學大学院文学研究科・三重県教育委員会		
文学修士	昭和52年3月	皇學館大學大学院文学研究科国文学専攻		
研究実績に関する事項				
代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 鑑賞万葉集	共 著	平成5年 3月	学術図書出版社	大学、短期大学、高専の文学教養書として出版された。小生は、執筆の担当は「磐姫皇后」の和歌4首を中心に注釈した。万葉集初期時代の有名作品群ゆえに本書を採用した高等教育機関の担当教員から、好評を得た。現在も出版されている。
(学術論文) 1. 虫麻呂「伝説歌」の創作意識(一)－真間娘子、兔原娘子、珠名娘子の歌を通して－	単 著	平成5年 3月	鈴鹿工業高等専門学校紀要第23巻第1号	高橋虫麻呂の「伝説歌」の訓読注釈を中心として、虫麻呂の「伝説歌」は、他の歌人とは違う「独自性」がある。その点に注目して「創作意識」を探求した。特に「真間娘子、兔原娘子、珠名娘子」の歌を取り上げた。
2. 『狭衣物語』考－「飛鳥井女君」物語における独自性について－	単 著	平成2年 3月	鈴鹿工業高等専門学校紀要第23巻第2号	中古文学の「狭衣物語」の「飛鳥井女君」物語は、他の物語とは物語の構成において、特徴的な違いが指摘できた。物語文学としての系譜として「作り物語」と「歌物語」との系譜があるが、本物語はその二つの特徴が合わさった面があり、その点が独自性といえる。
3. 虫麻呂「伝説歌」の創作意識(二)－真間娘子、兔原娘子、珠名娘子の歌を通して－	単 著	平成4年 3月	鈴鹿工業高等専門学校紀要第25巻第1号	先行の論文の続編であり、「伝説歌」の訓読注釈を中心として、他の歌人とは違う「独自性」を探求した。「珠名娘子」の歌は、真間娘子、兔原娘子の手法を継承しながらも、伝説歌としての特徴がまさに歌中に表現された歌として確認できた。
4. 昭和初期中等学校教科書について－岩波「国語」発刊にいたるまでを中心にして	単 著	平成4年 10月	皇 學 館 論 叢 第25巻第13号	高専に奉職する国語教員として、旧制中学校と高専の5年生という類似性を焦点にあて、昭和初期の国語教育を研究した。岩波国語として、当時国語教員の待望の中学校教科書としての定番になった。特に、編集の中心は「西尾実」先生であり、氏自身、国語教育の方向性がぎゅぎゅ詰まった教科書である。時代の相違はあれ、国語教育の原点は「読む。書く、聞く、話す」の4分野を中心と

				して、文学教育、文法教育を各学年学習目標に照らし合わせて教授していく指導である。また、それを指導する教員の「指導資料」も、指導の目的にしっかりと即したものであり、当時の国語教員としては教材研究に最適な指導書であった。それら一連の教科書、指導書の研究論文である。
5. 古事記「八千矛の神の歌物語」小考－「ぬばたまの夜は出でなむ」について－	単 著	平成9年 3月	鈴鹿工業高等専門学校紀要第30巻第1号	「古事記歌謡」に関する論文である。有名な「八千矛の神の歌物語」の冒頭にある「ぬばたまの夜は出でなむ」の注釈を試みた。「出で」の主体、主語は誰か。この解釈如何で、歌謡の注釈全体が違ってくる。この点に焦点をあてて考察した。古代歌謡における助動詞の使用法についての研究論文である。
6. 国語、数学、英語の「新入生学力検査」を実施して一本校における低学年指導のあり方－	共 著	平成13年 3月	鈴鹿工業高等専門学校紀要第34巻	今年度から、本校における高専新入生の実力を測るために外部試験を活用した。全国レベルの試験を導入することにより、その結果をもとにして、学生の実力を探り各教科の指導法、および他教科との横断的診断結果も重視して、総合的な指導法を探った。
7. 国語、数学、英語の「新入生学力検査」を実施して(2)－自ら学ぶ力を養成する視点から－	共 著	平成14年 3月	鈴鹿工業高等専門学校紀要第35巻	上記論文と同様、平成13年度生用の学力診断結果の分析である。3教科、5学科の新入生の実力分析の報告書である。「自ら学ぶ力」をキーワードとして指導した教員の実践報告である。高専の学生にとって、能動的に積極的に学ぶ姿勢は、「課題解決能力」を育成していく上で、とても重要なことである。
8. 自己表現力・自己理解力を育てる漢字指導について一文部科学省認定「日本漢字能力検定試験」の取り組みから－	単 著	平成14年 3月	鈴鹿工業高等専門学校紀要第35巻	本校では、平成7年度から「漢字能力検定試験」に取り組んでいる。表題のとおり、漢字教育、漢字習得のためだけではなく、「自己表現力」、「自己理解力」を育成するために、どのような教育手法のありかを探ったものである。最終的には、文章の要約力、小論文作成能力、および技術を養う上で、とても重要な観点である。
9. 国語、数学、英語の「新入生学力検査」を実施して(3)－理解度の個人差に配慮した教科指導－	共 著	平成15年 3月	鈴鹿工業高等専門学校紀要第36巻	上記論文と同様、平成14年度生用の学力診断結果の分析である。3教科、5学科の新入生の実力分析の報告書である。今年度は「理解度の個人差」をテーマにして、教科担当の教員の「創意工夫」の実践を示した。一人ひとりの能力を把握し、教授者がその能力にあった指導法を研究することにより、学生の基礎学力の向上が望まれるのである。
10. 高等専門学校における導入教育のあり方－国語・数学・英語の「新入生学力検査」の活用－	共 著	平成16年 3月	鈴鹿工業高等専門学校紀要第37巻	上記論文と同様、平成15年度生用の学力診断結果の分析である。3教科、5学科の新入生の実力分析の報告書である。改めて、「導入教育」のあり方を探った。これまでの分析を振り返り、新入学の時代から上級学年における専門基礎学習に耐えうる力を身につけるための指導法の開発を研究したものである。
11. 高専国語コミュニケーションスキル教育のあり方(2)－「新入生学力検査」の7年間の結果を通して－	単 著	平成18年 3月	鈴鹿工業高等専門学校紀要第39巻	上記論文と同様、平成17年度生用の学力診断結果の分析である。3教科、5学科の新入生の実力分析の報告書である。今年度は「コミュニケーションスキル教育のあり方」をテーマにして、教科担当の教員の「創意工夫」の実践を示した。国語学習における「読む、書く、聞く、話す」の4分野の総合力が「コミュニケーション能力」と位置づけることができることから、平素の国語学習に

				においても表現スキルを身につける工夫学習の開発に取り組んだものである。
12. 高専国語で「コミュニケーション能力」を身につける方法－「新入生学力検査」から探る－	単 著	平成19年 3月	鈴鹿工業高等専門 学校紀要第40巻	上記論文と同様、平成17年度生用の学力診断結果の分析である。3教科、5学科の新入生の実力分析の報告書である。今年度は「理解度の個人差」をテーマにして、教科担当の教員の実践を示した。指導内容の抜本的な見直しと行うと同時に、高専政における「コミュニケーション能力」の位置づけを再考し、エンジニアとしての「プレゼンテーション」能力の育成についても考察した。
13. 高専の国語教育で何を教えるか－「新入生学力検査」結果を踏まえて－	単 著	平成20年 3月	鈴鹿工業高等専門 学校紀要第41巻	上記論文と同様、平成19年度生用の学力診断結果の分析である。改めて新入生の「国語」実力分析の報告書である。今年度は「コミュニケーションスキル教育のあり方」をテーマにして、教科担当の教員の「創意工夫」の実践を示した。
14. 新入生学力検査「国語」を実施して－10年間の結果を通してみた教科指導のあり方－	単 著	平成21年 3月	鈴鹿工業高等専門 学校紀要第42巻	本校の「学力診断テスト」を実施して、平成20年度の新入生で10年目を迎えた。20年度生の学力診断をすると同時に、この10年間の学生の学力診断結果の分析を行った。ある。改めて新入生の「国語」実力分析の報告書である。今年度は「コミュニケーションスキル教育のあり方」をテーマにして、教科担当の教員の「創意工夫」の実践を示した。
15. 専攻科「コミュニケーション論」の授業展開－新しい教養科目（人文系）授業の構築を模索して－	単 著	平成15年 8月	平成15年度国立高 等専門学校機構教 員研究フォーラム	本論文は専攻科の人文系の教養科目の充実を図って、実践した内容の報告書である。特に、「コミュニケーション論」として、エンジニアの卵として、「エンジニア」のための「コミュニケーション」はどうあるべきかを考察した。全国の教員研究フォーラムでの発表原稿である。
16. 4年選択科目「文章表現学」の授業改善－自己表現力を身につけさせる－	単 著	平成17年 8月	平成17年度国立高 等専門学校機構教 員研究フォーラム	先の専攻科の「コミュニケーション論」の基礎科目となる、本科4年生の「文章表現学」についての授業改善についての実践報告である。社会人を身につけるためのものとした。本原稿においてPISA型「読解力」と「高専国語教育」、「文章表現学」の授業指針について言及した。その中で、プレゼンテーション学習も実際を実践報告した。この実践学習を通して、学生自身が自らの学習に自信を持ち、その能力を身につけたものである。
17. 「今どきの高専生－「不確実性の時代」、高専生は何を学ぶべきか－	単 著	平成22年 8月	平成22年度国立高 等専門学校機構教 員研究フォーラム	「不確実性の時代」をしっかりと定義すると同時に、高等教育機関で次代を担う高専学生を教育する立場にあつて、高専1年生の「漢文教材」を題材にして、漢文指導の方法を探った。学生指導の観点からも「今どき」の高専生の実像に迫ってみた。本学の「学力診断テスト」における学生の実力を参考にして、高専国語教育の命題といえる「コミュニケーション能力」、「自らを表現する力」の向上を柱とする授業実践した。
18. 「文章表現能力の開花を目指して－学外コンテストに挑戦して－	単 著	平成23年 8月	平成23年度国立高 等専門学校機構教 員研究フォーラム	平成18年度から国語科主催の夏季課題として「エッセイ」「読後感想文」の学外コンテストに挑戦させた国語科指導の紹介レポートである、全国の高専の教育フォーラムで発表原稿である。
19. 「豊かな人間性の涵養－鈴鹿高専国語科の挑戦－	単 著	平成23年 8月	平成23年度高専学 会	前述の発表原稿の続編である。特に「豊かな人間性の涵養」をテーマにして、さまざまな作品完成の柱に取り組ませた実践学習の報告論文である。全国の高専学会での発表原稿である。

20. 「保育者養成教育における実践力を身につけるためのアクティブラーニングを活用した授業展開の構想 - 科目間連携の特色を生かして -	共 著	平成29年 3月	小田原短期大学研究紀要第47号	本研究において、特に筆者が担当した研究内容に言及する。スクーリング科目「言語表現」と通常テキスト科目「保育内容言葉」との科目間連携について、次の点についての課題を確認できた。①、スクーリング科目と通常科目とのシラバスの精査の必要性、②、両科目とともに、保育者としての「発声」の仕方等の「表現活動」分野での学習方法の構築、③、心豊かな保育者として、子どもたちに読み聞かせに耐えうる絵本選択の適切な方法等の3点を課題と上げることができた。なお、通信教育課程の学生の学習環境の早急な改善策等も見つけ出すことができた。
21. 通信教育課程における保育者養成の課題 - 教育実習指導を例にあげて -	単 著	平成30年 3月	日本保育者養成学会第2回研究大会プログラム・抄録集	本研究においては、通信教育課程に所属する学生の「幼稚園教育実習」に関する固有課題について考察した。具体的には、「教育実習事後指導」における授業指導のあり方、実習生にとってこの科目の有意性を考察した。 学生には2回目実習後、7月中旬に本校への「教育実習事後指導」学習レポートの提出については、本校の「採点基準」をしっかりと踏まえさせ、教科担当はこれらを充分勘案した授業を計画的に導入実践できたといえる。 教育実習後、アンケートを実施した。大項目、①「実習態度」、②「保育者としての資質」、③「指導力」の評価項目の概要は、各学生が「PDCA」サイクルの法則に則り、自身の将来を見据えて真摯に向き合い、自己評価の5段階方式で評価したものである。特質できるのは、③「指導力」が高い数値を表していることである。その理由は、学生自身が本授業の命題である「幼児理解」の大原則に則って、現場で今ある力の限り「実習」できたと考察できる。
(その他) 1. 目標を持った高専生活を送らせるための「学生相談室」としての試み - 新入学生217名との対話を通して -	単 著	平成14年 3月	平成14年度国立高等専門学校機構教員研究フォーラム	国立高等専門学校協会「会長賞」を受賞。本論文は、筆者が「学生相談室長」を担当した初年度、新入生との「語り」を記録、実践した内容を報告したものである。筆者の新しい試みとして、本校で実施している学生個人の「性格検査」を使って、「悩み」の相談の仕方、個人懇談などのあり方について考察したものである。当時の高専における「学生相談室」のあり方を問う画期的な論文として、当初の評価をいただいたものである。
2. 高専弓道の現状と課題	共 著	平成21年 3月	平成20年度論文集「高専教育」	全国弓道連盟を立ち上げるまでの経緯とこれからの課題、展望を共著としてまとめた。この展望に沿って、本年26年8月に「第1回全国高等専門学校弓道大会」を実施できた。
3. 高専における学級担任はどうか - 東海・北陸地区新任教員研修会を終えて -	単 著	平成24年 8月	平成24年度国立高等専門学校機構教員研究フォーラム	本原稿は、校長補佐の経験を通して、高専における「学級担任」にお有り方を研修する会を、小生が中心になって、運営した「研修会」に報告書である。この研修会は高専初、第1回目であった。
その他(表彰等) 1. 「高等専門学校協会会長賞」	平成14年8月	平成14年度高等専門学校教員研究集会「高等専門学校協会会長賞」を受賞 表題「目標を持った高専生活を送らせるための「学生相談室」としての試み -		

		新入学生 217 名との対話を通してー
2. 「国立高等専門学校教員顕彰一般部門分野別(学生指導)優秀教員賞」	平成 22 年 3 月	平成 21 年度独立行政法人国立高等専門学校機構 教員 顕 彰 一 般 部 門 分 野 別 (学 生 指 導) 優 秀 教 員 賞 受 賞 顕彰内容 「高専国語における独創的指導方法の開拓および生活指導分野への 献身的指導姿勢」
3. 「全国高等学校体育連盟弓道専門部「感謝状」	平成 26 年 8 月	全国高等学校体育連盟弓道専門部から「感謝状」を授与される。 「永年の弓道普及発展・学生の人格陶冶に貢献」
4. 「全国高等専門学校弓道連盟」から「特別功労賞」	平成 27 年 8 月	全国高等専門学校弓道連盟から「特別功労賞」を授与される。 「全国高専弓道連盟の設立に寄与」、「全国高専弓道大会の発展・学生の人格 陶冶に貢献」